

# 全国協議会 ニュース

2024年2月1日発行 第378号

発行所：特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会  
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階  
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365  
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和  
https://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

## 議員連盟笹川会長 諸課題の解消への取り組み 政府へ提言

昨年5月に開催されました骨髄・さい帯血バンク議員連盟総会において、20年以上に亘りご尽力された野田聖子先生から後任の新一任に選出され就任しました。重責を受け継ぐことになり身の引き締まる思いです。ご尽力いただいている皆様に感謝申し上げますと共に、一緒に諸課題に取り組んで参りたいと存じます。

昨年、協議会の仲田順和会長がご逝去されました。骨髄バンク事業を長年にわたりお見守りいただき深く感謝申し上げますとともに心よりご冥福をお祈り申し上げます。

近年では年間2,400件を超える造血幹細胞移植が行われ、多くの患者の方々の命が救われてきました。しかしながら、移植に使用できる質の高い臍帯血を確保・調製・保存するために、さい帯血バンクの負担が増加する一方

で、臍帯血の手技料は、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が制定された平成24年以降、一度も増額されず、多くのさい帯血バンクでは赤字で経営する状況が続くとともに、日本で唯一の骨髄バンクである公益財団法人日本骨髄バンクにおいても、血縁者間から造血幹細胞を提供いただくハプロ移植や臍帯血移植への移行もあり、その収益は減少傾向にあります。

また、特に骨髄バンクドナーに関しては、ドナー登録の後に住所が不明となる者の数が拡大し続けていることや、若年層からのドナー登録を更に拡大させなければならないこと、本議員連盟においても導入を求めてきたドナー休暇制度の定着が遅々として進んでいないことなど、課題が山積しています。

このような課題を踏まえ11月に開催した議連総会では提言をまとめ、政府に対して申し入れを行いました。

主な内容は○さい帯血バンクを紺綬褒章に係る公益団体として認めると共に、議連が求めていた、骨髄バンクが紺綬褒章に係る公益団体に認定された(令和5年11月10日)ことについての周知を図ること○日本骨髄バンクが日本赤十字社の支援を受けて進める住所が不明となっている者への対応について必要な支援を行うこと○日本骨髄バンクが進める自己スワブ検査の導入に向けて必要な支援を行うこと○自治体で行われているドナー休暇制度について必要な支援を行うこと等です。

また、議連の名称も「献血」を加え骨髄・さい帯血バンク・献血議員連盟とすることにしました。

今後とも皆様とともに患者さんのために尽力して参ります。

(骨髄・さい帯血バンク・

献血議員連盟会長 笹川博義)

## 4年ぶりに箱根駅伝の沿道応援



川崎市川崎区元木周辺の沿道応援に参加してくださった皆様



箱根宮ノ下では雨の中、選手の名前で応援

コロナ禍で自粛していた東京箱根間往復大学駅伝競走の沿道応援は、第100回となる今年、4年ぶりに実施することができました。プルデンシャル生命保険株式会社の社員やご家族の皆様には今年も大勢の方にご協力いただ

きました。埼玉、千葉、神奈川、東京のボランティアの皆様も各所で参加。それぞれの場所でノボリを持っ

て応援・啓発活動に当たりました。駅伝選手を応援するとともに、お正月も病室や自宅で療養されている患者さんにTV画面をとおしてエールが伝わったと思います。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

## 能登半島地震

2024年1月1日に発生した能登半島地震で被災された方々にお見舞い申し上げます。

確認できた範囲では、支援者の皆様、協議会関係者の皆様にも人的な被害はありませんでした。一日も早く元の生活に戻れることを心からお祈りいたします。



東京田町駅周辺では登録を呼びかけるチラシも配布

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

## 骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDF(1月15日発行)より抜粋)

### ■日本骨髄バンクの現状(2023年12月末現在)

	11月	12月	現在数	累計数	
ドナー登録者数	3,722	3,121	552,810	950,816	
患者登録者数	168	200	1,642	68,022	
採取数	骨髄	62	55	—	26,173
	末梢血幹細胞	23	24	—	2,037
	合計	85	79	—	28,210

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

### ■12月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/947人、献血併行型集団登録会/2,118人、集団登録会/0人、その他/56人

### ■12月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,493人/20代 92,059人/30代 135,996人  
40代 214,788人/50代 105,474人

### ■12月の20歳未満の登録者420人

(注)数値は速報値のため訂正する場合があります。

### 「いちばん逢いたいひと」尾道映画祭招待作品に パネル展も同時開催

第7回尾道映画祭2024（主催：尾道映画祭実行委員会他）が1月12日（金）から14日（日）まで「しまなみ交流館」「シネマ尾道」で開催されました。

全国協議会も後援団体となり、「いのちの輝き展」を同時開催しました。

パネル展の会場ではあやちゃんの絵画やMAMO君の力強いメッセージに涙しながら見入る方も多くおられました。上映後の舞台挨拶では映画のプロデューサーの堀ともこさんの他、出演の丈さん（監督）、町本絵里さん、堀崎太郎さんが登壇、全国協議会公式アンバサダーの山本雅也さんも主題歌を歌うと共に骨髄バンクの必要性を語ってくださり、骨髄バンクと映画の内容

を会場の皆さんにより一層ご理解いただけたものと感じました。パネル展の開催に当たっては地元の皆さまにご協力をいただき感謝申し上げます。

以下は堀さんからのメッセージです。

映画「いちばん逢いたいひと」が尾道映画祭から招待を受け、まず初めに思ったことは「いのちの輝き展」とコラボできないかということでした。

この映画が伝えるのは命の大切さと骨髄移植の重要さであり、その先にある人生をイメージするようなエンディングで締められています。

ただ、このまま終わってはもったいない。映画を観終わったあとに骨髄バンクを知るような説明やイベントがあ



れば、人はより深く興味を持つのではないだろうか、と。

この度、尾道映画祭のお計らいで全国骨髄バンク推進連絡協議会とのコラボ企画を承認いただき、パネル展の開催が実現し、より深く骨髄バンクのことを知っていただけたと感じています。

国内外の映画祭でこのような企画は他にありませんし、画期的で発展性のある素晴らしい企画だったと、ご協力いただいた皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。（堀ともこ）

### 後藤田新知事に面会、若年層への取り組み強化等を要望



令和5年12月1日、とくしま骨髄バンクを支援する会では、全国協議会山口理事を含めた3人で、昨年5月の知事選挙で新しく徳島県知事となった後藤田正純氏に面会し、骨髄バンクの置かれている現状や今後の課題等について共有した上で、県としても骨髄バ

ンクの普及啓発やドナー登録拡大の取り組みを強化していただけるよう要望しました。

現状説明では、新型コロナの影響等により県内のドナー登録者数が伸びなやみ、今や減少傾向にあること。県内の登録者数を人口比でみると決して悪くはないものの、実数としては他県に比べまだまだ少なく、特に20歳前後の登録者数が低迷していること。今後の課題としては、今後10年で高年齢層が一挙に登録を卒業していくため、若年層のドナー登録確保がなお一層急務であること等を説明しました。ま

た、現場の声として、若年層への働きかけが重要となっていることを踏まえ、献血との連携強化を期待して薬務課への業務移管や教育現場での普及啓発を提案しました。

知事は、骨髄バンクの現状やドナー登録拡大の必要性について理解を示され、若年層への啓発や献血、教育関連との連携強化に取り組むよう、同席した担当部局にその場で指示を出されました。終始穏やかな雰囲気、最後に、知事と出席者全員で横断幕の前に記念撮影し、面会を無事終えました。後藤田知事、よろしくお願ひします。

（とくしま骨髄バンクを支援する会 池田良一）

### 令和6年度政府予算案 「ドナー助成」は見送り

政府は、昨年12月22日に「令和6年度予算案」を閣議決定しました。造血幹細胞移植関係予算（概要右下）は本年度予算とほぼ同額でした。さい帯血バンク運営費は3千万円、支援機関（日本赤十字社）は1千万円の増額でした。

厚生労働省は、地方自治体が実施している「ドナー助成制度」を国の制度とするよう4千万円を概算要求しましたが、見送りになりました。このドナー助成制度は全国の自治体1,724のうち、1,020自治体が導入しています。（2024

年1月15日現在：日本骨髄バンク調べ）

ドナーは、説明や家族同意の手続きや健康診断、骨髄採取などでの通院、入院で延7日程の休暇が必要ですが、ドナー候補者の約3割は都合がつかず（職場の理解が得られない、休暇制度がない、休むと減収となるなど）で辞退しています。

昨年11月30日に開催された「骨髄・さい帯血バンク議員連盟」総会では、国は自治体で行われ

ているドナー助成制度について必要な支援を行うよう、また骨髄バンク及びさい帯血バンクの運営費用を確保するため診療報酬点数を引き上げるよう決議を行い、政府に申し入れを行っています。全国協議会は早期の実現のため、今後も引き続き働きかけてまいります。

造血幹細胞移植対策の推進（括弧内は前年度当初予算額）	25億円（24億円）
①骨髄移植対策事業費（骨髄バンク運営費）	4.9億円（4.9億円）
②骨髄データバンク登録費（日本赤十字社）	6.5億円（6.5億円）
③さい帯血バンク運営費	6.5億円（6.2億円）
④造血幹細胞提供支援機関事業（日本赤十字社）	2.0億円（1.9億円）
⑤造血幹細胞移植患者・ドナー情報登録支援事業（学会データセンター運営費）	77百万円（77百万円）
⑥造血幹細胞移植医療体制整備事業（拠点病院運営費）	3.9億円（4.0億円）

## 首都圏でチャリティコンサート開催



埼玉骨髄バンク推進連絡会 | 11月4日(土)

1992年に三戸素子さんと小澤洋介さんの呼びかけで始められた骨髄バンクチャリティーコンサートは、コロナ禍の2年間を除き毎年開催され、今回で記念となる30回を迎えました。

三戸・小澤さんの出演は初回から変わりませんが、ピアニストのフィリップさんが2010年の第19回まで。その後、家庭の事情で来日できなくなり、4年間は毎回ゲストの方が務められ、2015年の第24回から現在の高田匡隆まさたかさんに務めていただいています。

今年もバプテスト浦和キリスト教会をお借りして開催し、演奏の幕間に行う骨髄バンクミニシンポジウムでは、元患者でユースアンバサダーだった石井希のぞみさんに『若い世代に骨髄バンクを知ってもらうために』と題して、辛かった闘病体験を通じて感じたこと、考えたこと、今後の課題や展望など、飾ることのない言葉に思いを乗せて

話っていただきました。

司会を務めた嶋津桂子さんからは、「広告大使というより広告天使のよう」と感想が寄せられました。また、最後に、手話サークルの皆さんに協力いただき、恒例の「翼をください」を全員合唱し幕を閉じました。(笠原慶一)

千葉骨髄バンク推進連絡会 | 11月18日(土)

成田市で毎年秋に開催している「コンサートと落語会」は、普及啓発と当会の活動資金調達活動としてスタートしました。県、市をはじめとした多くの皆様の多大なご支援をいただいています。会場は第1~3回が成田山新勝寺信徒会館で、第4~8回は成田市文化芸術センターとなり一層の広がりを見せています。

演目は、本活動に共鳴されたヴァイオリン奏者の三戸氏をはじめとするピアノ三重奏の感動の演奏と、ご当地出身で骨髄提供体験者でもある桂右女うめすけ助師匠の楽しい古典落語、合間の骨髄移植体験者と骨髄提供体験者の対談は司会が右女助師匠で軽妙に進みますが、命の重さに触れ、胸を打つものでした。会場借用に関しては成田市から多大なご支援をいただいています。また、当日演目プログラム表の中にプログラム協賛を各団体や企業からいただ

いており、この2点が大きな金銭的支援になっております。一方、全国協議会の前会長第12代目市川團十郎丈繫がりで成田山新勝寺様の絶大なるご支援をいただいております。御護摩修行・法話・精進料理も同時に体験することができ、成田公園での秋の紅葉散策なども楽しめます。

(「コンサートと落語会」実行委員長 円東克典)

骨髄バンクを支援する東京の会 | 11月23日(木祝)

東京の会秋恒例の「チャリティーコンサート響」を東京都の有形文化財に指定されている歴史的建造物で仏教の教会堂「求道会館」(文京区本郷)で開催しました。かつては説法の間であり「響」の名前の由来通り、演奏の音色が素晴らしい響きに包まれる会場です。ピアノ奏者の高田匡隆まさたかさん曰く、「他のコンサート会場にはない唯一無二の素晴らしい響きを体験できる会場で演奏が楽しみ」とのことです。定員150名の会場ですが未だコロナ禍の影響があり2階席は使用せずに1階のみ、席数60名として宣伝活動をおこないました。メールで参加を受付けましたが、直前まで申し込みが少なくヤキモキしましたが、最終的にはほぼ満席になりホッと胸をなでおろしました。来年は2階席も開放して開催したいです。(若木換)

## ドナー登録会視察旅行 in 沖縄

2023年11月。地元の友達が沖縄に移住したのでホテル代は無料! 思い切って旅へ…。せっかく沖縄へ行くのだから何かを収穫しよう! と決め沖縄の説明員さんとアポを取り、会ってきました!

「ドナー登録者数全国ワーストからの脱出作戦会議!」と題した「骨髄バンク全国大会2019 in 長野」から早4年。ドナー登録者数全国最下位だった長野県は今はお陰様で44位まで上がりました。しかし数ではない…全国で順位を争うことではない。と思いつつも全国1位の「沖縄」は何故? と何年も私の中では謎でした。

長野県の骨髄バンク連絡協議会でも毎年ただその年のドナー登録者の数と

全国の順位を県の担当が報告をし、私が来年はもっと活動できる場を増やしてほしい…。県は「検討します!」のやりとりで終わり。長野県の連絡協議会には信州大学の血液内科の先生も参加をしていてその時の最後の先生の一言「44位のまま毎年進まず、いい加減その理由を解明しないと…」の一言で私のエンジンはまたかかりました。

沖縄では、たまたま私が行った日に献血併行型ドナー登録会があり視察させてもらいました。もうこれは必然としか思えませんでした。

まず説明員さんが日本赤十字社の社員さんであること。そして献血会場では指揮をとるくらいの積極的な声掛け。これは他の県では難しいかもしれませんが、もうひとつ1位の理由は献血バスの運行先が若年層が沢山いる場



所。今回も看護学校での登録会でした。大学はもちろん、看護学校、そして高校にも献血バスが行くそうです。

ドナー登録者の課題はやはり若年層。沖縄は若年層への啓発がもう当たり前になっている。そして若年層の協力も当たり前のようにになっている。それが全国1位の秘訣なんだと感じた沖縄の旅でした。全国の日本赤十字社の協力を求める事が重要なのです!

(骨髄バンク長野 ひまわりの会 笠原千夏子)

### 山本雅也さんクリスマスライブ開催 全国協議会も後援



全国骨髄バンク推進連絡協議会公式アンバサダーの山本雅也です。去年12月22日(金)、J-SQUARE SHINAGAWA(ジョイサウンド)ホールでのクリスマスコンサートをさせていただきました。コロナ禍で2度ほど中止と延期を繰り返したホールで、ようやく開催できたこととても嬉しかったです。

ラストソングに全国骨髄バンク推進連絡協議会テーマソング「人生をたどる物語」を演奏して、みんながドナー登録を考える機会になったと思います。

ライブ後、多くの皆様が冊子を手に取り、募金や「ドナー登録したいけど、どこでやってるのか詳しく聞きたい」と言っただき本当に嬉しかったです。

音楽を通して一人でも多くのドナーが増えるよう、一時的な宣伝のようなものではなく、アーティスト自身が長い年月をかけて一人一人と触れ合い普及していくことが大事なんだと改めて思いました。

人との触れ合いの中でしか得られないものを目指して、アンバサダーとして恥ずかしくない音楽をしていけるよう、2024年も活動していけたらと思いますので、これからもお願いいたします。

人はきっと、音楽の前では素直になれるんだと信じて。

「そういう音楽をやるんだ」と決意して。(山本雅也)

### 訃報 神山清子さんご逝去



作品と共に 2019年9月撮影

滋賀県信楽の女流陶芸家で滋賀骨髄献血の和を広げる会の会長を務められた神山清子さんが12月22日逝去されました。神山さんは息子の賢一さんが白血病と診断され、当時無かった骨髄バンクを立ち上げる初期メンバーとして奔走されました。神山さんたちの尽力で骨髄バンクは発足しました。神山さんは男社会だった信楽焼の世界に飛び込み、独特の作風「信楽自然釉」の再現に取り組みれました。神山さんの半生は賢一さんの闘病生活を描いた本『母さん子守歌うたって一寸越窯・いのちの記録』が2005年映画化され『火火』として上映され、その後2019年秋神山さんの半生を参考にして作られたNHK連続テレビ小説『スカーレット』が放送されました。骨髄バンクボランティア仲間には優しいお母さんとの印象でしたが、作陶や窯炊きの時の芸術家としての雰囲気は近寄りた感じでした。ご本人の希望により、賢一さんと同じく滋賀医科大学に献体されました。ご冥福をお祈りします。

各地のたより 各地のたよりを写真を添えてお寄せください。

### 兵庫 第7回播磨地区高校生バンドフェスティバル



2023年12月26日(火)アクリエひめじ中ホールにて、恒例のクリスマスコンサートを開催いたしました。参加生徒を入れて240名ほどの方が来場され、播磨地区の13校13組のバンドによる演奏が行われました。どのチームも元気よくそれぞれ個性のある演奏で会場は盛り上がりました。

演奏が終わった後、来られた方に事前に配布しておりましたチャンスを見てくださいながら骨髄バンクについての説明会を行いました。来場者の中に

「子供を助けていただきありがとうございますとおっしゃり、募金をしてくださいとご夫婦の方がおられとても胸が熱くなりました。

今年も、ここアクリエひめじでの開催が決まっております。多くの若い世代の人たちに楽しんでいただき、骨髄バンクを知っていただく機会になればと思っております。

(姫路地区骨髄バンク推進センター 濱田恵子)

### 心からのご寄付に感謝申し上げます ●12月21日～1月20日(敬称略)

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

●一般	本田 真奈美 現金 5,000円	株式会社 MTJ フィットネス 現金 9,625円
三井化学株式会社ちびっとワンコイン	塩谷 泰人 現金 1,000円	巢鴨クリニック 現金 8,586円
現金 200,000円	モトミヤ リサ 現金 25,000円	長昌寺 現金 12,014円
三井化学株式会社	●こうのとりのマリン支援基金	すし善 現金 10,991円
現金 200,000円	東京港南マリンロータリークラブ	コスモ石油労働組合 現金 2,886円
株式会社エアネット	現金 100,000円	箱根駅伝宮ノ下募金箱 現金 2,020円
現金 584,700円	●募金箱	尾道映画祭募金箱 現金 21,275円
藤波 敬子 現金 10,000円	株式会社 クスリのアオキ	●つながる募金
オークランド観光開発株式会社	現金 842,649円	現金 15,300円
松永尚忠 現金 10,000円	株式会社 マルト商事	●キモチと。 現金 5,072円
飛田 行康 現金 20,000円	現金 61,220円	
匿名 現金 1,000円	株式会社 フクヤ	
●佐藤きち子造血細胞移植患者支援基金	現金 26,011円	
東京港南マリンロータリークラブ	株式会社 ナルックス	
現金 100,000円	現金 35,781円	

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754 普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会 郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。